

第30回 がん検診のあり方に関する検討会	資料 1-1
令和2年1月15日	

対象者のリスクに応じたがん検診のあり方に関する意見の整理

健康局がん・疾病対策課

第29回がん検診のあり方に関する検討会における主なご意見

○ ご提示した論点

- がん検診における「対象者のリスク」について、どのように捉えていくとよいか。
- 対象者のリスクに応じたがん検診のあり方について、今後、どのように検討していくべきか。



○ 第29回がん検診のあり方に関する検討会における主なご意見

- リスク層別化の因子として適しているかの判断基準については、当該因子に基づくリスクの差を、そのがんにおける年齢区分ごとのリスクの違いと比較し、検討することが妥当ではないか。（検討するリスク因子については、年齢区分と同様に層別化できる必要があるのではないか。）
- 例えば、胃がんの場合ではピロリ菌の感染、子宮頸がんではHPVの感染、肺がんでは喫煙、大腸がんでは内視鏡を実施した後のポリープの状況、乳がんではマンモグラフィの検査所見等が、層別化してリスクの高い集団について、より大きな効果が得られる可能性があるのではないか。
- また、リスク層別化した場合は、それに基づいたがん検診としての効果の大きさについて、別途検証が必要ではないか。（高リスクの方に検診を実施した場合、がん検診としての効果が小さいことが見込まれるような場合には、必ずしもリスクの高い人だけを選んで検診を実施するということにはならないということも、考えておくべきではないか。）

○ 個別の検査技術に関する整理

- 【胃がん】 ペプシノゲン検査とヘリコバクターピロリ抗体検査の併用方法によるリスク層別化を行い、リスクに応じた検査を実施する検診が期待されている。ただし、リスク層別化された手段に対する胃エックス線検査または胃内視鏡検査の死亡率減少効果については、異なるリスクを有する集団では一般的な集団で想定できる効果と同等の成果が得られない可能性がある。(有効性評価に基づく胃がん検診ガイドライン2014年度版)
- 【子宮頸がん】 HPV検査併用又は単独法による子宮頸がん検診は、推奨グレードとしてはB(利益が不利益を上回るため、対策型・任意型検診としての実施は推奨される)であるが、検診結果毎のアルゴリズムの構築・運用担保が必要。(有効性評価に基づく子宮頸がん検診ガイドライン2018年版ドラフト)
- 【肺がん】 米国USPSTFは、高喫煙歴の55-80歳の者に対して、低線量CT検査を用いた年1回の肺がん検診を推奨する一方、低喫煙者等については、肺がん検診を推奨していない。(第27回検討会資料から作成)
- 【乳がん】 乳がん検診として、科学的根拠が示されているのはマンモグラフィだけであるが、高濃度乳房での精度が低いことが指摘されている。一方、超音波検査による死亡率減少効果は検証されていない。(第27回検討会資料から作成)

(参考)H30年度革新的がん医療実用化研究事業等における がん検診に関する研究

第29回 がん検診のあり方に関する検討会

令和元年11月13日

資料
4-2

がんの種類	検査方法	研究課題	所属	研究者名(敬称略)
胃がん	胃内視鏡検査	個別リスクに基づく適切な胃がん検診提供体制構築に関する研究	公益財団法人 宮城県対がん協会	深尾 彰
胃がん	ヘリコバクター・ピロリ抗体検査	中高年者におけるヘリコバクター・ピロリ菌除菌の胃がん予防効果を評価するための長期追跡研究	国立研究開発法人 国立がん研究センター	井上 真奈美
子宮頸がん	HPV検査	子宮頸がん検診における細胞診とHPV検査併用の有用性に関する研究	学校法人慶應義塾 慶應義塾大学	青木 大輔
肺がん	低線量CT検査	低線量CTによる肺がん検診の実用化を目指した無作為化比較試験および大規模コホート研究	学校法人 東北医科薬科大学	佐川 元保
肺がん 膵がん	尿中 バイオマーカー検査	独創的な尿中蛋白質断片解析法により同定した高感度の早期肺癌・膵臓癌診断マーカーの検診への導入を目指した多施設検証と企業化の実現	国立大学法人 宮崎大学	中里 雅光
乳がん	乳房超音波検査	超音波検査による乳がん検診の有効性を検証する比較試験	国立大学法人 東北大学	大内 憲明
大腸がん	大腸内視鏡検査	対策型検診を目指した大腸内視鏡検診の有効性評価のためのランダム化比較試験	学校法人 昭和大学	工藤 進英
大腸がん	大腸内視鏡検査	人工知能技術を用いた大腸内視鏡検査における病変検出・診断支援技術の開発	学校法人慈恵大学 慈恵医科大学	炭山 和毅
膵がん	血液 バイオマーカー検査	血液バイオマーカーを用いた効率的な膵がん検診の実用化	国立研究開発法人 国立がん研究センター	本田 一文
膵がん	胃内視鏡検査	最新の高感度変異解析技術を用いた「胃カメラしながら膵がん検診」の開発	国立研究開発法人 国立がん研究センター	谷内田 真一

(厚生労働科学研究)

- 子宮頸がん HPV感染検査 研究課題「わが国の子宮頸がん検診におけるHPV検査導入の問題点と具体的な運用方法の検討」
学校法人慶應義塾慶應義塾大学 青木大輔